

音楽馬鹿から始まった 伝統的工芸品の再生プロジェクト ～井波彫刻ギターを通して木彫刻産業を全国に発信～

崎田 宗孝

井波彫刻協同組合
事務局長



要 旨

これは井波彫刻協同組合が中心となり、彫刻師、行政、企業、団体、地域の方々と連携し、様々な課題を解決しながら富山県の伝統的工芸品「井波彫刻」を全国に発信する活動を記したレポートです。

日本国内のほとんどの伝統産業は、昨今の生活様式の変化や、海外からの安価な輸入品の増大等により、需要が低迷し、生産額の落ち込みに伴い、従事者数が減少を続けています。

「欄間（らんま）」が主力商品だった井波彫刻も近年、住宅の洋風化が進み、欄間の需要が激減し、生産高は1990年代ピークの10分の1を切るほどに落ち込んでしまいました。従事者の高齢化、さらには後継者不足という産地内の要因と、日本人の価値観の変化や本物志向の希薄化による伝統工芸品離れが加速しております。

このままでは、250年以上の歴史を持つ、伝統的工芸品「井波彫刻」の存続が危ぶまれる。危機を感じた私は“若者に「音楽」を通して井波彫刻の素晴らしさを知ってもらおう！”と決意しました。

本稿は、組合事務職員として、様々な方の支援のもと、井波彫刻師と共に暴走した活動レポートです。



》井波彫刻とは

井波彫刻は、江戸時代中期に瑞泉寺再建の折り、京都東本願寺より御用彫刻師前川三四郎が派遣され、地元の大工が彫刻の技法を習ったことが始まりです。

江戸時代末期頃まで主に神社仏閣彫刻などを主に制作しておりましたが、明治時代からは住宅用の「欄間（らんま）」の生産量が日本一になり、木彫りの町「いなみ」と呼ばれるようになりました。

昭和に入ってからでも神社彫刻は活発で、全国各地の寺社・仏閣の彫刻を数多く手掛けてきました。また一般住宅欄間・獅子頭などの置物にも力を注ぎ、彫刻の一大産地として昭和50年には、「国の伝統的工芸品」の指定を受けています。2018年には「名古屋城本丸御殿」に欄間7枚を井波彫刻の技で復元し、同年、「木彫刻のまち井波」が日本遺産に認定されました。2020年10月、東京都内「小石川後樂園唐門」に井波彫刻で制作した彫刻を設置する予定です。

》きっかけは音楽馬鹿から始まった…わたくしの生き立ちのご説明

私は、音楽が大好きで、「人生は、音楽と食べ物さえあれば幸せに生きていける」と考えております。

小学生の頃から兄や友人の影響もあり、洋楽を聴くことが大好きになり、中学1年生の時には大好きだったビートルズのメンバー“ポール・マッカートニー”に憧れ、お小遣いを貯めてエレキギターを購入しました。その頃から私にとって「音楽」は、生活の中心になっていました。

高校生になると、美術が大好きだったので美大を目指し、デッサン塾で大学入試用のデッサンを勉強しておりました。そして高校3年生になり、石川県内の美術大学の願書を取り寄せ、2月の受験に合格できるよう頑張っていました。

しかしそこから私の人生において事件がおきました……。

ある朝、新聞を読んでいると広告欄に掲載されていた“ポール・マッカートニー 来日コンサート チケット予約開始！”の記事が目飛び込んで来ました。

そして東京ドームで開催されるコンサートの日を見ると、なんと美大の受験日とピッタリと重なり愕然としました。そして当時18歳の私は悩みました・・・。

どうしよう・・・どうしよう・・・。

親にデッサン塾に2年以上通わせてもらったのに・・・憧れの美大を捨ててコンサートに行くのが正しいのか・・・間違いなのか・・・。

そして私はもし一年以内に死んだらどちらを後悔するかと考えました。

美大は何度でも受験出来るが、あの世界的に有名なポール・マッカートニーは日本には毎年来ない。ならばコンサートを優先しようと決断しました。

当時は今のように便利なインターネットが存在しなかった時代なので、チケットを購入する為、何度も何度も電話しました。ようやく一時間ぐらいで、チケットを予約することができました。

そして、コンサート前日に夜行列車に乗り、初めての東京、初めての東京ドーム、初めてばかりの体験でした。そしてコンサートが始まりました。夢にまで見た憧れのポール・マッカートニーがステージに登場。そして目の前で、これまで何千回も聴いた数々のビートルズの名曲が演奏され、鳥肌が立つ程、感動しました。

今死んでも悔いは無い、自分の選択は間違っていなかったと確信しました。

そして富山に戻り、進路の問題に直面しました。美大一筋で受験勉強していたので、受験出来る希望の大学が殆ど無く悩みました。

そしてその頃、コタツでうたた寝をして目が覚めると、傍に置いてあった新聞広告に「富山大原簿記学校設立！税理士学科 第一期生募集！」と掲載されているのに目が留まりました。と同時にインスピレーションが働き、“ここに行こう！”と決意しました。これまで美術一筋の自分が、何故会計の世界に入ろうと決めたのかは、今振り返ってもよくわかりませんが、神の声みたいなのが聞こえた感触がありました。

そして専門学校に通い、アルバイトで稼いだお金はすべてギターやギター関連の備品につぎ込み、バンド活動をしておりました。

そして就職活動が始まり、色々と就職先を探していると「井波彫刻協同組合 経理のエキスパート事務員募集！」の募集情報を見つけ、またインスピレーションが働き、すぐに面接試験を受け、内定をもらうことができました。

》入社した頃の伝統的工芸品“井波彫刻”に対する正直な感想

1995年4月1日に井波彫刻協同組合に入社した私が毎日関わるのは井波彫刻師の方でした。六十代でも若いと言われるこの業界は、通常の業界とは全く違っていました。250年以上の歴史をもつ伝統工芸の業界では「変化」「革命」はタブーとされていました。当時、バブル崩壊の直前だったため、現在ほど頑張らなくても木彫りの作品が普通に売れていましたが、バブル崩壊後、急激に年々、井波彫刻の売上高が減少していきました。そして売上減少の原因を色々と分析したところ、一番の原因は“井波彫刻の知名度が無い”事だとわかりました。さらに若い方は全く井波彫刻に関心が無いという事もわかってきました。今だから正直申し上げますが、当時、私自身この業界を“陰気臭くて保守的な業界”と感じていました。中学生の頃、父親に今の「井波彫刻総合会館」の前身である「井波彫刻伝統産業会館」に連れて行ってもらった時、つまらなく感じた事も思い出しました。その頃から、私の頭の中で「伝統工芸＝暗い・陰気臭い・カッコよくない」という算式になっていました。

》音楽好きの革命派の職人との出会い

ただ、その“保守的・排他的”な業界で、私と良く似た考えの井波彫刻師二人に出会いました。

一人は、私と音楽の趣味が合った「高田斉(たかた ひとし)」氏。もう一人は、井波彫刻師になる前に、ギター制作職人を目指したことがある「田中孝明(たなか こうめい)」氏。この二人と会話していると、井波彫刻は、まだまだカッコ良くなり、将来に希望が持てると思いました。

入社当時からギターが大好きな私は、純粋に心から「井波彫刻の凄い技術を駆使してエレキギターに彫刻して欲しい！」と強く願っており、この二人に「もし私が新商品開発の補助金を申請して通ったら、エレキギターに彫刻をしてもらえますか？」とお願いしました。高田氏と田中氏は、二つ返事で快く了解してくれました。

》 入社から13年

入社から13年が経ったある日、地元の井波町商工会（現在：南砺市商工会井波事務所）の斎藤茂男事務局長から新商品開発の補助金があるとの連絡を頂き、すぐに「井波彫刻ギター開発企画書」を作成しました。

そして申請と同時にヒアリングがあるという事で「富山県商工会連合会」の会議室でプレゼンをしてきました。

》 平成20年度(2008年)小規模事業者新事業全国展開支援事業の採択決定

色々な方のお力添えもあり、平成20年度小規模事業者新事業全国展開支援事業の“採択決定”があり、「井波彫刻ギター 3本までなら制作してもいいです」との承諾を頂きました。

喜んでいる暇もなく、すぐに10年以上前に声をかけた高田斉氏と田中孝明氏に全国展開支援事業の説明をして、制作準備に入りました。さらに、予期しない追い風となる、いい動きがありました。それは、残りのギター制作枠1本を、当時の組合理事長の「岩倉雅美（いわくら まさよし）」氏が彫刻したいと手を挙げてきた事です。実はこの支援事業の申請は本来、理事会を通して申請しなければいけないところを、数名の役員だけにしか許可を取らず、私の独断で申請しただけに、かなり役員から叱られ、私がクビになってもおかしくない状況でした。その状況下で組合の理事長が井波彫刻ギター企画のメンバーに入ると言うことは私にとっては本当に想定外であり、“井波彫刻ギター企画”を思いきって実行できる環境が整いました。

》 日本最大のオリジナルギター制作メーカー“ESP”に協力依頼

井波彫刻ギター制作委員のメンバー全員で隣県の石川県金沢市にある「ESP金沢店」を訪問し、見積もりやアドバイスを頂き、彫刻を施す土台となるギターの制作を依頼しました。2か月程経ちギター本体が出来上がり早速、三名の彫刻師が彫刻に取り掛かりました。彫刻の後は塗装業者をお願いし、ついに念願の「井波彫刻ギター」三本が完成しました。



ESP®

↑ 高田斉氏が「龍剣」制作中の画像

左から→

・井波彫刻ギター「水月」
田中孝明作
価格:1,100,000円

・井波彫刻ギター「龍剣」
高田斉作
価格:2,200,000円

・井波彫刻ギター「バード」
岩倉雅美作
価格:1,650,000円



》井波彫刻ギター完成発表会



左から→
・田中孝明氏
・高田斉氏

当時、私は井波彫刻の広報を担当しており、完成発表会をするにあたって出来る限りの取材依頼（プレスリリース）をし、当日を迎えました。

当時は、リーマンショックにより世界はもちろん、日本国内でも“どんより”としたムードが漂っており、昨今のコロナウイルス情勢と同様、景気の良くない話題ばかりでした。こんな暗い時期に井波彫刻ギター企画の完成発表会を開催しても注目を集める事が出来るとは思っていませんでした。

しかし、その私のマイナス思考とはまったく逆で、取材当日、これまで見たことの無い数の取材陣に集まって頂き、翌日、検索サイト「Yahoo Japan」のトップページに数時間でしたが井波彫刻ギター「龍剣」が掲載されました。全国版の毎日新聞・読売新聞・中日新聞にも取り上げられ、それに伴い雑誌やテレビ番組からも多数取材依頼が寄せられました。

各取材記者から「こんな暗い世の中だからこそ、世界を明るくする斬新・画期的なニュースが欲しかった」と教えて頂きました。



Yahoo Japanのトップページに掲載された井波彫刻ギター画像



「龍剣」ギターケースも大きい

》あらゆるメディアから「井波彫刻ギター」の取材依頼が殺到

次回予告



次回放送は2月16日火曜日です



所さんの「ニッポンの出番」にて放送(番組ホームページより引用)



TBS「世界ふしぎ発見!」にて
クイズの出題として放送



テツ&トモさん出演の旅番組

》各展示会での客層の変化

井波彫刻ギター三本完成から間もなく、これまで出展できなかった大手百貨店や東京ビックサイト「ギフトショー」にて展示される事により、好循環サイクルを生み出し、さらなる取材依頼や展示会出展依頼が殺到しました。各展示会場ではこれまで井波彫刻に無関心だった若い方が、このギターを見て“凄い!” “かっこいい!” “欲しい!” “”と言う声を沢山頂きました。



東京都内の百貨店
「日本の職人展」にて展示



東京ビックサイト
「ギフトショー」にて展示

» 井波彫刻ギター「龍剣」の受注が入る

発売から間もなく東京都内の個人客から井波彫刻ギター「龍剣」の注文が1本入り、デザインを改良し制作しました。このお客様は全くギター経験がなく、展示・観賞用として購入されました。



→
販売した彫刻ギター「龍剣II」

》富山県南砺市で日本のエレキの神様“寺内タケシin井波”コンサート開催

龍剣ギター完成からわずか半年で、多くのメディアに取り上げて頂いたことにより、井波地域内では井波彫刻ギター“一色”で、県内の議員様や有力者様から「この井波彫刻ギターを日本のエレキの神様“寺内タケシ”氏に弾いてもらえば面白いのではないか？」と言う声があがり、すぐにそのプロジェクトは動き出しました。いつの間にか、主催は井波彫刻協同組合になり、音楽の興業など、当然開催した事がありませんでした。地域の方々の協力もあり、会場である「井波総合文化センター」の座席数600席の入場チケットは、すべて完売しました。

コンサート当日の駐車場の誘導も井波彫刻師の役員総出で協力しなければならぬことになり、組合内でも「なぜ俺たち職人がこんな事をしなければいけないのか？」と言う声もありましたが、すでに地域の方々が熱く動いていましたので、組合が動かざるを得ない状況になっていました。

とはいいいながらも、当時は井波彫刻協同組合にとっては、すべて初めての経験・体験ばかりだったので、今振り返れば、組合関係者一同、楽しんで協力したように思えます。

そしてコンサート当時を迎えました。私は舞台裏で、龍剣ギターを寺内タケシ氏にお渡しするという役割があり、その時の緊張した気持ちは未だに忘れられません。

ステージ上に現れた寺内タケシ氏が、ご自身のヤマハ製のエレキギターでの演奏が始まり、会場が盛り上がったピークの所で、高田斉氏の作成した井波彫刻ギター「龍剣（りゅうけん）」が、私から手渡しされ一曲演奏して頂きました。

先にも記述しましたが、中学時代にギターを始め、ギター一筋で頑張ってきて、このような形で仕事と合体するなんて想像もしてなかったので涙が出るくらい嬉しかったです。



日本のエレキの神様“寺内タケシin井波”コンサート時、井波彫刻ギター演奏画像
※富山県南砺市ホームページ内より画像引用

》北陸の伝統工芸のコラボギター井波彫刻「獅子ギター」の完成《

当初、井波彫刻ギター3本の制作が決定した際、井波彫刻の代表的な作品である「獅子頭（ししがしら）」をコンセプトとしたギターを候補の一つとして提案したが、残念ながら見送りとなってしまいました。全国展開支援事業が終わり数年経った頃、また彫刻ギターを制作する補助金を頂き、念願の「獅子ギター」を制作出来る事になりました。先に制作した三本のギターにより井波彫刻の技術をPRすることが出来ましたが、男性向きのギターだったので、獅子ギターは「女性が似合う・コンパクト・カラフル」なデザインにしました。

獅子ギターの制作は、井波彫刻業界の中でもアイデア・企画力が飛びぬけて優れている井波彫刻師の「大野勝人（おおの まさと）」氏に依頼しました。今回は、北陸の伝統工芸のコラボと称して塗装は富山県の「高岡漆器」様に協力して頂き、石川県の伝統工芸品「金沢金箔」も使用しました。



井波彫刻ギター「獅子」 大野勝人作 価格:440,000円

》獅子イベント“獅子カーニバル”にて獅子ギターを使ったライブ開催!

井波彫刻「獅子ギター」が完成し、獅子三昧のイベント「獅子カーニバル」を開催しました。ライブは全国展開支援事業で作成したギター3本と獅子ギター合わせて4本で行い、獅子ギターは狙い通り、女性からの支持を得ることが出来ました。



地元ヘビーメタルバンドが演奏



地元女性バンドが演奏

》愛読本ギターマガジン“プレイヤー”に井波彫刻ギター特集掲載!

ある日、「ギター雑誌の“プレイヤー”ですが井波彫刻ギターを取材させて頂きたいのですが?」と事務所に電話があり、すかさず私は「学生時代から毎日読んでました!感動です!全力でご協力いたします!」と答えました。

数か月後に待ちに待った記事が特集された雑誌が店頭で並び、嬉しさのあまりに出来る限り買い占めました。



ギターマガジン「Player」にて「井波彫刻ギター」が特集(カラー4ページ)

》観光マンガ雑誌「やわやわ 富山・金沢の旅」に掲載 ライターの衝撃の一言《

ある日、若い女性のフリーライターが事務所に訪問され是非とも獅子ギターを観光マンガ雑誌に掲載し富山県をPRしたいとの依頼がありました。

フリーライターさんは「私は、獅子ギターを見て心から井波彫刻を取材したくなりました。正直言いますと、これまで井波彫刻は全く興味も感じず、取材したいとは思いませんでした」と話されました。この何気ない一言が私にとっては最高の褒め言葉でした。



漫画雑誌「やわやわ 富山・金沢の旅」にて「獅子ギター」掲載

》音楽関連商品の開発

最近では、「井波彫刻」と「音楽」を融合した商品の開発に力を入れており、若い方から関心を頂いております。具体的には“スマートフォン用スピーカー”や「よさこい演舞」に使う“鳴子”にも彫刻を施しました。



井波彫刻 鳴子「舞」



井波彫刻 鳴子「ドラゴン」



スマホスピーカー「きぼりんご」



スマホスピーカー「そらまめ」



スマホスピーカー「うさぎ」
「小槌」

》そして現在、獅子ギターの注文が入り、制作中

現在のコロナ禍で井波彫刻への受注が減少している中、2020年7月に「獅子ギター」の注文が東京の浅草地域のお客様から入りました。現在制作中で納期は2020年12月です。



獅子ギターボディ彫刻前画像



獅子ギター制作中画像

》最後に

このように「音楽」と「伝統工芸品」の企画させて頂きましたが、組合事務局員として「伝統の古い歴史」と「新しい現代のニーズに合った取り組み」の両方を、バランスよく正確に発信していきたいと思いました。

そして、一人では実現できないことが、組合又は組織では実現可能となるということが「井波彫刻ギター企画」を通して体験させて頂きました。

今後も、組合事務局員として一般的な事務業務をするだけでなく、今まで以上に“ソウルフル”になり、いいアイデアがひらめいた時は、ダメもとでも色々な方のお借りし、実行・実現していく井波彫刻協同組合事務局職員でいたいと思います。



井波彫刻協同組合が所在する「井波彫刻総合会館」